

【参加学生レポート：海外学生】

今回のフォーラムで感じたこと

1. 国際的交流的側面

今回のフォーラムでは韓国、日本だけでなくいろんな国の大学生も参加して色々な国の多様な視覚が分かっただけでなくいろんな文化にも接することができて良かった。

私は以前にもお茶の水女子大学とのセミナーに参加したことがあったが、その時はいろんな話を交わすことはできたけど日程が短くてとても惜しかったけど今度は日程も長いし多様なプログラムも用意されて色々な国の学生達と交流をすることがもっと円滑だった。

最も良かったのは、日本の学生たちと宿舎が同じで、プログラムが終わった後も色々な話を交わすことができたということだ。単純にお互いの国に来たことがあるかから深い話まで交わすことができた。友達の家遊びに行き、一緒にネットフリックスを見たり、好きな芸能人に関する話をしたり、お互いの文化差について話したりした。国は違うけど、やはり同じ世代だから興味を持っているところも一緒だし、好みもかなりかぶっていて交流するのがもっと楽しかった。そのなかで初めて会った時は日本人の友達だったら、ある瞬間からはただの友達になっていた。フォーラムが終わる頃には10日ぐらいの期間があつという間に過ぎたように感じられ、最後にお茶の水学生たちが映像の手紙が流れた時には感動した。韓国へ帰る日、宿所のドアに手紙がかかっていた時は残念だったし、もう帰ることが実感できず、涙が出る場所だった。10日という短い期間の中でたくさんの思い出と深い友情ができて嬉しいし、これからもこの縁を続けていきたい。また会う日を待ちながら。そして、このような民間交流がますます増えて、東アジア全体に平和と連帯が一日も早くできることを期待する。

2. 言語使用・学習の側面

このフォーラムに参加する前から日本語で発表を準備しながら学習的にはとても役立ったと思う。どうすればもっと意味がよく伝えられるかといういろんな単語を調べたり、辞書を引いて見ながら初めて知った語彙もあったからだ。また、普段は日常生活でよく使う語彙だけを使うが、今回のフォーラムでは丁寧な敬語体の使用や、普段あまり話さないことに対して扱っているため語彙の使い方がもっと幅広くなったようだ。また、発表を準備しながらお茶の水大学の学生たちがこの言葉はこの文脈には似合わない、この単語がもっと意味伝達に良さそうだ、などの単純に辞書や本には受け取れないフィードバックをしてくれてもっと良い日本語学習になったと思う。

そして日本語会話の勉強にも役立った。韓国では日本語専攻とはいえ、日本語が使える環境が極めて限定的に、私の場合には日本語会話授業がなければ日本語を使う時間はほとんどなかった。しかし、今回のフォーラムではほとんどずっと日本語だけを使って最初は言おうとした言葉が日本語にすぐ出てこなかったりしたが、だんだん日本語を使うのが自然になって日本人学生を含め、他の国の学生たちとも活発に疏通することができた。

みんな国籍は多様だったが、日本語で疎通するというのが何か面白い経験だった。また、日本人だけでなく、他の国籍の学生たちもいたからこそ、その国の言語に接するのも楽しかった。私は2年前に中国に留学した経験があるので、その時の記憶を生かして中国人学生と中国語で話したり、ポーランド人の学生とは生まれて初めてポーランド語を習ったりしながらもっと親しくなることができてよかったと思う。言語学習が互いの文化を学ぶことで自然に繋がったのだ。

3. 学問的学び

私も発表を一生懸命に準備したが、他の学生たちの発表を聞きながら、みんな本当に一生懸命準備したなと思った。特に釜山外国語大学の学生たちが発表した提案の中で、一緒に行動して連帯することがあったが、私たちが発表した内容にも似ている部分があり、やはり共にすることの重要性を認識しているのだという気がした。

発表が終わった後の質疑応答時間も非常に興味深かった。私に印象深かったのは、中国人学生の発表時間に日本人学生が中国人の日本人に対するイメージを聞いてみたことだった。中国人学生は、実は中国の若者は日本に憧れており、日本に否定的なイメージを持っているのは中高年層ということだ。そう言いながら、自分の母は自分が日本に行くと言った時、日本で殺されるかもしれないと言った話を聞いて、私は非常に驚いた。でも実は韓国と日本もあまり変わらない気がした。韓国でも若者の中で日本文化、日本食を好む人が多く、日本でも韓国ドラマ、韓国料理、韓国ファッションなどにとっても関心を持っている若者が多いからだ。特に、今回のフォーラムで会ったお茶の水大学生の多くがハングルを学んだことがあり、ある学生は韓国人

の私よりも韓国のドラマやアイドルについて良く知っているのが驚いた。しかし、このような雰囲気の中でも、政治的、歴史的には非常に互いに否定的なイメージを持っており、特に年齢層が高くなるほど、その否定的な傾向は強くなる。この状況が私には悲しく感じられた。お互いに好感は持っているが、政治的、歴史的な理由で互いを憎まなければならない状況と、特に東アジアの若者は、この二つの側面がますます激しくなり、どちらを選ぶべきか葛藤する状況が悲しく感じられた。一例として、ある日本人生徒は、自分はBTSが好きだが、以前はBTSのメンバーの一人が原爆写真のTシャツを着た事件が起こった時は、依然としてBTSが好きだが、韓国アイドルが好きとは言えない雰囲気だったという。そのため、今後、私たちの世代が大事だと考えるようになった。過去には様々な理由でお互いに対して否定的なイメージを持ち、それが当然だと教育を受けたが、これからは単純にお互いを嫌悪し、否定的に考えるのではなく、積極的に交流して様々な問題を円満に解決できるように能動的な姿勢を取らなければならないと考えるようになった。

他にも台湾についてどう思うかなど正直気になったが、聞きづらい質問に対しても聞いて新鮮で良い席だったと思う。また、今後の討論でも東アジアの未来のために、多くの国が膝を突き合わせて一生懸命考えることも良かった。発表の時より活発にお互いの意見を自分の国の目線で色々分けることができて良かった。最も記憶に残るのは、提案の一つで国際結婚が出たことだ。その発想がとても新鮮で面白くてまだ記憶に残る。

4. イベントとしてのフォーラムについて

今回のフォーラムでよかった点は、いろんなプログラムが用意されていて、他の参加学生たちと仲良くなれやすかったし、東京のいろんなところを観光できてよかったということだ。特に江戸博物館と銀座ツアーで歌舞伎博物館は初めてだったけど、日本の文化と歴史に関していろんなことを学ぶことができて良かった。そして日本人学生と一緒にペアーになって観光したので、観光しながら、気になることがあったらすぐ聞くとすぐ答えてくれたので、疑問を解消することができた。そして、一緒にいる時間が多くて交流できる時間も多くて良かったし、単純に文化だけ交流する事ではないお互いに敏感に感じられる直説的な質問もできる席がめったにないので、このような場が大事に感じられた。

ただ、残念だった点は宿所と学校の距離があって行き来するのに疲れており、プログラム時間も予定より遅く終わることが多くて、その日のプログラムが終われば行ったり、私のような場合には体力が弱くて、別々にもっとどこに遊びに行ったり、交流するのが大変だった。そして思ったより別に時間を持たなければパーティと交流する時間がなくて初めて会った時、よそよそしい感じがして親しくなるのに時間がかかって残念だった。フォーラム前にパーティと親しくなるプログラムがあれば、より多くの交流ができるのでよかったと思う。

5. 東アジア・世界がともに生きることについて

私はフォーラムに参加する前にはこういう考えを持っていた。東アジアが共に平和的に生きることは本当に実現できるのか、できるはずがない。とても否定的な考え方だった。テレビを見ると、中国とは環境汚染問題、日本とは数え切れないほどたくさんの否定的な内容が流れた。特に最近では、その傾向がさらに深刻になっている。PM2.5が深刻な空を見ながら、周辺の人々と自然に中国を非難したり、慰安婦や強制徴用に関する記事を読むと、日本に対する否定的なイメージは周りの人はもちろん、私も知らずにますます強まっていった。東アジアはそれこそ近いが、遠い国だった。

そのため、今回のフォーラムの発表を準備し、半信半疑の気持ちになった。果して私たちの力のできることもあるだろうか。政治家でもなく世界的に影響を及ぼす人でもない、各自の国の大学生が東アジアの平和のためにできることが何だろうか。発表を準備しながら考え出した提案は大したものではない。事実上、政治家でもない大学生が東アジアでできることは多くないためだ。私たちが今回のフォーラムで提案したのは4つで、一つ目は、差別単語を使わないこと、二つ目は、中高生に東アジアへの正しい認識を持たせるための努力をすること、三つ目は、韓国と中国、日本が共通に抱えている社会問題を共に解決していくこと、四つ目は、慰安婦問題や徴用工問題などを政治的観点で見のではなく、人権問題の観点で見つめることである。

この四つの提案はたいしたものではないが、遠くから見ると東アジア関係に種を植えたと思う。単純にこの提案だけを見ると、これだけで東アジア関係が急激に好転したり、お互いの国が持っている問題が解決されるわけでもないが、そのように進む道の一步になると考える。このような小さな動きから始まり、いつか花を咲かせる日がくると私は信じている。また、この発表を準備しながら、東アジア関係について深く考えることができたが、韓国、中国、日本の3国は、歴史的にも経済的にも政治的にも、様々な側面から見てもお互いにはがせない仲であることを改めて認識し、今後の東アジア関係の重要性を知るきっかけとなった。

フォーラムに参加する前の私は東アジア関係についてかなり懐疑的だったと考える。しかしフォーラムが終わった後、今の私は肯定的に変わったばかりでなく、今私たちが何をすべきか探るようになり、今私たち

世代に対する責任感と民間交流に対する必要性と重要性を認識するようになったという大きな変化が起きたと思う。

我々は共に生きている

1. 国際的交流的側面

今回のフォーラムを通して色々な国から集まった学生たちと会い話を交わしながらとても多くのものを学ぶ事ができた。皆生まれた国が違う、育つ中で学んだことが違う、生きていく中で身についた文化が違う、だから互い知らないものや誤解していたものが多かった。気になるものやわからないものを聞き合って話し合いながら自分がとても無知であったこととまだまだ知らないものがたくさんあるだろうということに気が付いた。そしてこのような機会を得ることができてとても良かったと思った。自分が今回のフォーラムに参加していなかったら今よりももっと無知でいただろうし自分の中で誤解を納得したまま他の国のことを見て語っていただろうと思うと、交流をする事がどれほど大事かを実感することができた。

知らなかったものを知っていく、知識が増えていくというのもとても勉強になったが、自分が住んでいる韓国のことを他の国の人たちはどう思っているのか、韓国のことで何が気になっているのかを聞くことができ国際関係などについて韓国のこれからへ繋がる手がかりを掴むことができた気がする。

韓国や世界で話題になっている問題について今まで私は同じ国に住んでいる人としか話したことがなかったと思う。そのせいか似たような考え方を持っている人が多かったし少し異なるとしても韓国人としての視点から離れなかったものの、全く違う国で生きてきた、韓国人とは程遠い考え方や視線を持つ人たちと話してみると自分の視点からは見ることができなかつたことを自覚されて思考が広がるように感じた。

語る必要はあると思うが、「友達との仲が悪くなるかも知れない」、「いきなりこのような話を申し出たら喧嘩を売っているように見えるのではないか」などかの不安から日本や他の国友達との話の中で歴史的問題、社会的問題に対してはあえて触れないようにしてきたと思う。そのゆえ、私は今回のフォーラムで初めて色々な国の人たちと敏感な国際的問題に対して真剣に話し合ってみた。元々そのような話をするため世界や国際関係などに興味を持っている人たちが集まった場だからというものが大きく影響したと思うが、話し合ってみると思っていたより皆が問題となっている状況について確かに理解していて、互いの国の間で問題や騒ぎを起こすような発言・行動などがそれぞれの国でどのように受け入れられているかを確かめることができた。とある行動や発言の問題になるのはお互いの文化や考え方の違いによるものもあって、その行動や発言を受け入れ方が違うということ、そしてその違いをお互いが理解できていないという事を改めて知った。問題の解決法について色々な意見を持つ人たちと話し合ったり考えたりすることができてとても有意義であったし、問題に対する態度や理解度をより深めることができたと思う。

今回のフォーラムを通して交流の重要さ示され、話し合いの力を知ることができたと思う。

2. 言語使用・学習の側面

韓国で住みながら韓国語以外の言語を日常生活で使うことはあまり多くないと思う。日本語の勉強をする時、日本語を使う何かの活動をする時、日本人と話す時くらいだろう。できれば多くの機会を作ろうとしているが色々な活動をして、勉強をしても韓国ではわからない、日本でしか学べないものがたくさんある。だからこそ日本に来て日本語を母国語として使っている人と話す学ぶことがとても多い。

韓国語と日本語は同じく漢字の影響を受けた言葉として書き方や読み方は違うが似たものも多いと思う。漢字語を使うとして意味が伝わらない訳ではないが、それよりもっと日本で多く使われている日本語の表現があったりする。そのような点とか間違った日本語を使ったとき、それを誰かに直してもらってでもっと使い方が上手になっていくと思うが、今回フォーラムにてはその効果が倍加されたと思う。

自分は自分がいつも使う単語や表現を無意識的に使ってしまうし思い出してしまう。だが今回のフォーラムでは自分以外でも日本語を勉強している人がたくさん側にいて皆がそれぞれ使う単語・表現などが違う。そのため色々な場合での日本語を経験できたし、皆の使う日本語と自分が使う日本語を比べることができて言葉の使用・学習において一人では決してできなかった勉強ができたと思う。

3. 学問的学び

先生方からのご講演一つ一つとても重要で大事なものを学ぶことができ共に生きることとは何なのかを考える機会となった。

森山先生からはより良い世界のため、共に生きるため、自分を社会をクリティカルに見つめ多様な価値観を認める視点を持つことを、小松先生からはベルギーとカナダの例を挙げ言葉の教育がナショナリズムを超えたお互い理解やインターカルチュラルなシチズンシップの形成、そして共生のために果たす役割と重要性を、山本先生からはグローバル化とローカル化が同時進行していく中で、その構成人たちの間で感じる同質性と多様性に対して二元法で考えるのではなく自分自身に対し緻密で洞察力のある創造的な理解の下で共に生きることとは相手がいなければできなかった形で何かを達成する事だということ、王先生からはメディアを通してだけ世界を見るのではなく、直接自分で確かめること、そしてそのため色々な人たちと連携・協力関係を築くのが重要だということをお教わった。

シンポジウムでは皆の発表を聞きその内容に基づいて共に生きるに私達はどうするべきかを話し合うことができた。とても多様な意見を聞くことができたしそれを共有することができて一二の人や国の集まりではできない発表とディスカッションだったと思う。

共生のために私たちはどうすればいいのかに対して、アメリカのダッフィさんは国際問題に関心を持ち、他の人の意見も聞き入れ自分の考えを深めることと国際関係や言葉を学ぶことを、ニュージーランドのフィリンさんとチューナーさんは仕事、教育、文化の3つの分野を中心に他の国のことを受け入れる準備を行い、共同体意識を育てることを、中国の劉さんと周さんは経済の一体化、共同体意識を育てるための教育、日中韓大学生連合国際事業グループを作ることを、プサンのベクさんとソンさんは交換留学の活性化、共通した教育を行い共同体意識を育てることとSNSを利用しキャンペーンを行うことを、日本の酒井さん、榎本さん、大山さんは多様性を認めながら、同じ市民として平等を求めるシティズンシップが共生の鍵であると東アジア共生かいぎの開催、教育機関の設立、正しい情報機関の設立の提案を、そしてポーランドのアリシアさんとマルチナさんは過去の戦争や争いが現在の国際情勢に影響を及ぼしてはならないと過去ばかり目を向けるのではなく将来のことを一緒に考え築いていく必要があり経済協力と個々でなく全体を見て共同体意識を持つことを提案してくれた。

その内容を持って行ったディスカッションでは皆と色々な歴史的、社会的問題に対して意見を交わした。戦争の下で行われた犯罪に対して真の謝罪とは何なのか、現状を皆どう思っているか、問題とされている理由は何だと思うか、これから共生するために私たちはどうすればいいのか、様々な話題で真面目に話すことができた。

私は個人的にポーランドの意見がとても印象に残っている。自国の事例を例え、似たような状況下でも東アジアとは違う方向へ進んだケースがあることを知った。これからのために、戦争下で起きたことに関して、謝り許しあって、東アジアの国々より先に一步進んだと思う。前までは心のどこかで本当に韓国と日本が分かり合える日が来るのかと疑っていたが、ポーランドの発表を聞き、皆と話し合っていく中でいつか両方が本心で謝罪をし、それを受け入れる日が来るだろうと強く思うようになった。今はどちらも自尊心を先立てて言うべき言葉を言わず取るべき行動を取らず顔色をうかがいあっているがいつかはきっとポーランドとドイツのように、ヨーロッパの国々のように仲良くなれるだろうと思う。今はそのための道を作っていくべきではないかと思った。今回のフォーラムのおかげでそのような考えを持つことが可能になって嬉しく思う。

4. イベントとしてのフォーラムについて

今度のフォーラムでよかった点・達成できた点といえば、自分だけでなく色々な環境で生きてきた人たちと話し合っ、彼らの視線での意見も聞くことができて前よりもっと多様な視点でものを観れるようになった。様々な分野にわたって自分の国のこと・他の国のことを知り合う時間が十分にあって知らなかったことをたくさん知ることができたし、誤解していたものや疑問に思っていたものを確かめることができた。色々な国の言葉で簡単な表現を知ることができたし、日本語に対しても一人ではできなかった勉強ができた。共

に生きることは何かをここまで真剣に考えたことはなかったと思うが皆と話し合い、前よりもっと「世界」に、「共に生きる」というものに興味を持つことができた。そしてこれからもその様なものを一緒に話しあえる良い仲間ができたと思う。フォーラムの限界・改善点といえば、シンポジウム進行においてQ&Aなどで目立った言葉の違いによる会話が不便だった点が少し残念に思える。

5. 東アジア・世界がともに生きることについて

環境も文化も言葉も歴史も全然違う我々だが、同じ地球という惑星に住んでいて、同じ世界の構成人である。私は東アジアの人たちも、世界の人たちもすでに共に生きていると思う。ただ、地球という大きい世界は、それぞれ違う特徴を持つ国々に小さく割れていて、自分が育ち住んでいるその地域的範囲だけを思い個々の利益のため意思や思想のため他何かの理由で喧嘩をしたり、それによって誤解が発生したりして、皆が共に生きているということを忘れていていると思う。だから皆が大きい意味で世界を考え、同じ世界で生きていることを自覚すれば、東アジアが、世界が共に生きていけるのではないかと思う。そしてそのためにお互いのことを知っていくこと、交流することが大事だと思う。小さき世界ではなく大きい世界を見るためには、他の国々のことを確かにわかって、経験し学んでいくことが必要だと思う。他の国のことを理解し、受け入れていくな自分と違うところが多くあるとしても、同じ世界を共に生きていく感覚を持てると思う。そしてそのような感覚を持ち、お互いのことを見ることができれば今各国が抱えている過去・現在の問題に対して良い解決法が見つかるのではないかと思う。

私は人が生きていく中で環境というものがとても大事だと思うしそれを変えられる力を持っているのは教育だと思っている。そのような考えから、私は人たちが世界の皆は共に生きていることに気付かずに生きてきたとしても、教育活動を行ったり国際的な交流の場を持つようにしたりしていけば良いのではないかと思う。

私は今回のフォーラムで色々な国から集まった学生たちと会い話し合っていく中で皆と共に生きていると感じた。全員が別々のところに住んでいて、違う言葉を使って、違う環境で育って、今までの生きてきた文化の中で同じ点の一つもないとしても私は彼らと同じ世界に存在している、彼らと共に生きていると感じた。そしてまたこれから皆が違う生き方をしていくとしてもそれは変わらないと思った。

国際学生フォーラムが持ってくる未来の変化について

1. 国際的交流的側面

まず、国際学生フォーラムという名前に似合って、世界各国の大学生たちとであって、議論して話し合う良い機会でした。普段、出会うことがなかったニュージーランドやポーランド、アメリカ、中国、日本の大学生の考え方や意見を聞くこともでき、彼らを理解し、お互いが持っていた誤解を解消することができました。

未来の国際的交流は若者である大学生に掛かっています。彼らにであって、議論ができる今回のフォーラムは国際的交流的側面で肯定的な結果を持ってくると思います。

2. 言語使用・学習の側面

今回の国際学生フォーラムはシンポジウムや講演などすべてのプログラムが日本語や英語で行われました。そのおかげで聞き取りの能力はもちろん、自分の伝言したいことを分かりやすい日本語で伝えることができるようになりました。

また、お茶の水女子大学の学生と外国からの学生との1:1バディプログラムも日常生活でよく使われる会話の能力の向上にも良かったです。学校の会話の授業とは違って、24時間続けて日本語でコミュニケーションをしたおかげで、全体的な日本語の能力が目に見えるほど上達するようになりました。

3. 学問的学び

一番勉強になったのはやはり世界各国の皆さんの発表を聞いて、議論を行ったことです。理論を学ぶことでとどまらず、実際に議論をしながら異なる文化を持っている人を理解し、受け入れることができるようになりました。

カンタベリー大学の発表で、異なる文化を持っている民族を理解して、受け入れる方法を学びました。ワルシャワ大学の発表では加害国家を許して、もっと良い未来のため、お互い協力することが重要だと教えてもらいました。韓日の関係もポーランドとドイツのようにお互い協力して、東アジアの明るい未来を作ってみたら良いと思いました。ヴァッサー大学の発表は世界で生まれている様々な問題をリーダー国家として解決することを学びました。大連理工大学の発表を通じて、東アジアの未来のために、若者の大学生たちがお互い協力することができる具体的な方案について考えてみるようになりました。釜山外国語大学の発表を聞いて、東アジアが現在側面している問題とその解決のため国家間の妥協と譲歩が必要だと考えるようになりました。

先生方の講演は自分の考え方を改める有益な講演でした。ベルギーという一つの国の中で使われている様々な言語とそれによる葛藤の発生が一番印象深かった。また、一家庭の中で生まれる言語使用の混乱や言語が一人のアイデンティティの確立に影響を及ぼすことが印象的でした。

4. イベントとしてのフォーラムについて

今回のフォーラムで一番良かったのは学生たちが大部のプログラムの運営を主導したことです。一から細かいことまで学生さんの意見が反映していて、真の学生フォーラムだと感じました。そして、この影響を受けて自分も世界学生の交流に積極的に参加したいと思うようになりました。

また、両国や銀座、お台場にスタディーツアーに行って直接的な勉強ができたのも良かったです。特に両国の江戸東京博物館に行って、昔の東京と現在の東京を比べてみることは本当に記憶に残ります。

ただ、フォーラムのシンポジウムの期間が少し短くて、議論する時間が足りなかったです。三日に増やして、もっと長い時間議論したいと思いました。

また、EUの参加国がもっとあって様々な意見を聞きたいとおもいました。特に日韓関係と似ているドイツ・フランスの学生さんの意見も知りたくまりました。

5. 未来のための歴史問題の解決

韓国と日本の間にある過去史 이슈が引き続いてきた根本的な理由は1965年に締結された韓日条約が過

去史の処理を徹底に扱っていないまま、便利注意的政治妥結を目的としたことである。日韓の間の過去問題に関する対立の悪循環を繰り返すことから切り抜けるため、基本条約体制の考え直すことが必要だと思います。

しかし、条約の改正は一つの国家の一方的な主張と要求によって行われることは不可能です。従って、日韓が続いて交流しながらお互い納得できる妥協点を探さなければならないと思います。今回の国際学生フォーラムのように若者たちも相手国とのコミュニケーションをしながら自分たちができるものを探して、積極的に行おうとする能力が必要だと思います。

6. 東アジア、世界がともに生きることについて

長い間、仲が良くなかったドイツとフランスだったが、半世紀前からパートナー関係を志向してきた事例を見習わなければならないと思います。東アジアのように隣接の国の国民が真の和解のためには、長い歴史で形成されたお互いに対する偏見や固定観念を解決しなければなりません。そのため、まず偏向した歴史のバランスを探る能力が必要です。隣の国の国民たちが相手国と自分の国が文化のコミュニティーであることを気づき、同じ東アジア人として帰属感を持つことからお互いの和解と理解が始まる。

私たちの大学生も自分の国を優先するナショナリズムの考え方よりもお互いを理解しようとする和解と理解が必要です。

<参考文献>

- 유병용 (2005) 「한일협정과 한일관계의 개선방향」 『한일역사 공동연구보고서』 6号 38-40
주경철 (2007) 「숙적에서 동반자로」 『독일과 프랑스의 역사적 화해』 5-8

国際学生フォーラムで得たもの

1. 国際的交流的側面

私にとって今回のフォーラムは日本だけではなく、西洋の文化圏の学生たちとも交流する機会があって、とても興味深かった。私はシンポジウムやスタディーツアーのスケジュールが終わってからの時間も、留学生やお茶大の学生たちと時間を過ごし、色々な話をした。お茶大の学生たちとの交流を通して、共感を覚えることができたことが印象的だった。韓国の文化と日本の文化は似たような部分が多くあると言っても、明確な違いが存在する異文化である。また、現在に至るまでも韓国と日本は様々な葛藤問題を抱えている。それにもかかわらず、私は日本の学生たちと話をするとき、まるで同じ韓国人と話しているような、共感を覚えることができた。そして、私は今回のフォーラムで初めての西洋の友だちができ、その友だちとの交流を通して、新しいことを学び、また、今まで当たり前だと考えていたことについて、考察する機会を持つようになった。下記に、それらについてより詳しく述べる。

日本の学生たちとの会話を通して、現在、日本と韓国は文化交流が活発に行われていることを感じた。K-pop や J-pop の話で、共通の関心事を探ることができ、すぐに気まずさを解消することができた。そして、私たちが共感を覚えることができたのは、この大衆文化の話だけではない。社会問題の話をするときもお互いに共感を覚えることができた。社会問題の話題の一つであるフェミニズムの話をしたとき、私たちはお互いの社会でフェミニズムがどういうふうに広がっていつているのかを知りたがった。それで、私たちは自分が読んでみたフェミニズムの本を勧めたり、関連記事を共有したりした。このような過程で、お互いの文化は少し違うが、似たような社会の中で生きていく女性として、韓国人と日本人が共感することができるという事実が印象的だった。

ニュージーランドの学生との交流では、「多文化」ということについて考察する機会を持つようになった。私は今まで「多文化」ということを概念的に理解していた。それについて深く考えたことがなく、実際に多文化社会で住んだこともなかった。そして、ニュージーランドの学生と話し合うとき、こういう話をした。「人間関係を形成するとき、相手の国籍を気にするかどうか」の話であった。その学生は、相手の出身国を気にせず、人間関係を構築すると言っていた。わたしはこの話を聞いて、他国の人を対する自分の態度を振り返ってみた。つまり、文化の違いを認め、包括的態度を持つべきということ学んだのである。

上述の通り、私は様々な国の人と交流することで、文化的背景が違うにもかかわらず、お互い共感を持つことができるという事実が、また普段、私が無意識に感じていたことを深く考えることができた。

2. 言語使用・学習の側面

フォーラムの初めに各国の留学生と自己紹介をしたり、会話をしてみたりしたら、皆の日本語が上手で、これからのコミュニケーションに問題はないだろうと思っていた。しかし、その学生たちと政治や歴史などの難しい話をするとき、日本語でコミュニケーションをすることに限界が感じられた。このような言語の障壁を感じたとき、学生たちは日本語と英語を混ぜてコミュニケーションを行った。が、普段、英語の会話に難しさを感じていた私は、英語を使ってコミュニケーションをすることがほとんどできなかった。もちろん、私が英語の会話ができない際に、英語の上手な同期に通訳をしてもらった。しかし、英語圏の学生たちと友だちになったのに、通訳がないと色々な話をすることができないのが惜しいと感じ、これからもっと英語の勉強を頑張ろうと思った。

英語が話せなかった分、ちゃんとした日本語で話せたのかというと、それでもなかった。日本語の会話をするときも、日本語で説明できないことがあってもどかしかった。が、自分がどのような状況で、日本語を使うことに難しさを感じるのかを把握することができた。私は会話の締め切りをすることが苦手で、また言葉をにごしてしまう習慣があるのが分かった。相槌の打ち方も学校で何回か勉強したことがあるのに、実際の会話で使うことが難しかった。

思ったより日本語で話すことが難しくて、自分のことを残念だと思ったが、今回のフォーラムは私にとって、言語能力のどの部分が足りないのかを分かる良い機会になったと思う。また、英語圏の学生たちと友だちになって、それが私にとって英語の勉強のモチベーションになり、これから英語の勉強を頑張りたいと思うようになった。

3. 学問的学び

今回のフォーラムの講演で一番印象に残ったキーワードは「ナショナリズム」である。先生たちの講演を通して、ナショナリズムと愛国心の違いを学び、身近なことからナショナリズム的なものを考えてみた。意外と私の周りからナショナリズム的なものを探することは簡単であった。

例を1つあげてみると、韓国人は自国の社会に様々な不満を持っているとしても、他国の人から韓国社会の問題点を指摘されると、腹を立てることが少なくない。また、普段は自国について「Hell 朝鮮」と言ったり、「脱朝鮮したい」という言葉を用いる反面、ワールドカップのサッカー試合があるとき、韓国のチームを応援する人も結構いる。韓国の社会で生きていくのが大変だとしても、幼いころからの愛国心（ナショナリズムの傾向であるが）の教育を受けたため、このような現象が起こるのではないかと思う。もちろん、この例にはナショナリズム以外のものが作用しているかもしれないが、ナショナリズム的なことも影響されていると思う。

シンポジウムではニュージーランドの発表が一番印象に残っている。ニュージーランドの学生たちが発表で提示した提案を、私が準備した発表の内容に加え、新しい提案を考えてみること等、色々な提案を考えてみた。私は東アジアの3国が連帯を構築するために、認識改善に力を注ぐ必要があると思い、その提案として「差別単語を使わないこと」を提示した。差別単語を用いる際、悪意を持っていないとしても、差別単語を用いることだけで、相手の気持ちが悪くなるので、意識して使わないようにするということである。これらを実践するために、ニュージーランドの学生たちが提案した「共同体意識を持つこと」に同感する。日中韓の各国の人々が他人ではなく、共同体という意識を持てば、無意識的な差別単語の使用を減らすことができるのではないかと思う。

私が発表の際、提案した二つ目の提案は「東アジアに対する中高生の正しい認識を形成すること」である。青少年期に東アジアへの偏狭な情報に触れると、偏見が生じやすいと思う。それを改善するため大学生が中学・高校を訪問し、クラブの活動として、色々な活動をすることで、学生たちが東アジアへの肯定的な認識を持つように努力することを提案した。この活動と共にニュージーランドの学生たちが提示した「多文化が体験できる祭り」もよい提案だと思う。私が発表の際に提案した活動は学生のみを対象としているが、多文化の祭りは町で行われる活動なので、もっと幅広い人々を対象として認識改善を実践することができると思う。

上記のように、私は今回のシンポジウムを通して、東アジアの平和のためにできることを、他国の事例と共に考えることができた。

4. イベントとしてのフォーラムについて

今回のフォーラムは本当に時間が足りないくらい楽しかった。楽しくて時間が足りなく感じたのは事実であるが、フォーラムがもっと長い期間にかけて行われたらよかったと思う。費用が少しかかるとしても、東京から離れている地域に、フォーラムに参加した学生たち全員が、一緒にスタディーツアーに行ってもよかったと思う。私が1年生のとき参加した日韓交流セミナーでは日本の学生たちと草津に行ったことがあるが、一緒に同じ部屋で泊まったり、観光したりしたのが本当に楽しかったので、今回そのような宿泊活動がなかったのが少し惜しいと思う。が、全体的にフォーラムに参加したことを満足している。

5. 私にとって今回のフォーラムとは

私は大学生になってから、他国の学生たちとの話をすることによって、その文化を間接的に体験する機会を求めていた。しかし、私には今まで日本人以外の外国人と交流する機会がなかった。それで、私にとって今回のフォーラムは本当に貴重な経験であった。私が好きな言語である日本語を用い、様々な国の学生たちと友だちになり、色々な話をすることができたからだ。また、私は普段日韓の関係に興味を持っていて、私が考えたことを日本の友だちに聞かせたり、日本人の友だちの意見も聞いたりしてみたかった。フォーラムが終わった後も、仲良くなったお茶大の学生たちと日韓関係について話すことができた。また、帰国してからもメッセージを使って連絡することができ、本当に嬉しいと思う。10日間の短い時間だったが、その時間を通して活発な交流をすることができて、非常に良かった。

6. 東アジア・世界がともに生きることについて

東アジアの3国は今まで、自分の考えを固執してきたと思う。それで、これからは東アジアの間に政治的な葛藤が起こった際、自国のマスコミだけでその情報を受け入れるのではなく、相対国のマスコミの情報にも触れてみる必要があると思った。相対国の立場で自国を見つめると、私が考えていた自国とは違う面が見えてくるのではないかと思ったからだ。それで、私はこれから、韓国が中国や日本と政治的に対立し、韓国のマスコミの情報だけで相対国の主張が理解できない場合、相対国のマスコミでは該当の事件をどのように扱っているのかを見るように努力していきたいと思う。そして、東アジアの平和のために日中韓が用いるべき態度は「協力する態度」であると考えている。東アジアの間には、現在に至るまで様々な歴史問題や政治的問題等で葛藤が起こっているが、3国がお互いに対立する態度を用いると、国際関係は冷え込むばかりである。3国は隣国であり、現在も多くの影響を与えている。またこれからも3国はもっとお互い影響を与えていくからこそ、協力する態度は重要だと思う。

国際フォーラムを通じた東アジアの連帯

1. 国際的交流的側面

今回の国際フォーラムに参加する前から最も期待になった部分があった。それは今回のフォーラムは、韓国と日本だけではなく、地理的にかなり距離があって文化的にも多くの違いがある国が参加する国際フォーラムという点で他の一般フォーラムと違いがあった。

1年前に関西の語学堂に交換留学をしたが、私にとって、あの時が色々な国から来た友達に会うことができる最初の機会だった。その時は、アメリカ、イギリス、スペイン、フィンランドから来た友達と交流し、初めて他の文化を接して理解してみようという気持ちで違いについて考えて見ることができる機会だった。この過去の交流経験をもとにして、今回のお茶の水大学で行われた国際フォーラムで、出会った様々な国の友達によりオープンなマインドで先に話をかけたり交流したりすることができてよかった。また、前に会えなかったもっと多様な国の同じ年頃の友達と交流しながら、フォーラムのテーマの内容はもとより、文化や日常生活の話しも共有することができる貴重な時間だったと思った。

2. 言語使用・学習の側面

私は韓国では日本語を主に本で勉強してきた。会話の授業があったとしても、授業時間の75分のみ使用する機会がまったくないので、いつも惜しかった。

今回のフォーラムを通じて、日本語で日本人の友達と話して親しくなる機会があったとても良かったと思った。何よりも、同じ年頃の日本人の友達がよく使う言葉とか発音とかもって語学的な面でも学ぶことができて良かった。そして、1年前には関西地方で交流したけど、今回の交流は関東地方でした交流だった。韓国も地方ごとによって、少しずつ言葉の語尾などが少し異なる部分があるが、日本も地域によって、少しずつ違いがあると感じた。日本語を専攻している外国語学習者の立場として、面白くてそんな部分についても研究してみたいと思った。

3. 学問的学び

フォーラムのテーマは確かに東アジアの連帯だった。しかし、東アジアが連帯するためにできることについて考えてみると、ただ東アジア三国内で解決策を見つけなければならないかという疑問ができた。

今回のフォーラムでは、東アジア3国の韓国、日本、中国、そして地理的にかなり遠い距離であるポーランド、アメリカ、ニュージーランドから来た色々な国籍の友達と一緒に話を交わすことができる時間を持った。各国ごとに歴史も違って、文化が違うゆえに各国が持っている葛藤も違った。そのような世界的な葛藤の話聞きながら、そのような葛藤が起きた時、その国はどうやって対処したか、またどのような考えを持っているのか聞きながら比較してみることができた。そして、比較して得られる学ぶ点を各国の状況に合わせて適用できるかどうかについても考えてみるようになった。

4. イベントとしてのフォーラムについて

今回の国際フォーラムは、予想したよりもスムーズによく進行したようですごく満足した。日程も無理しないで余裕のあるように適当に進んでいたと思った。

そして何よりも、討論の以外にも様々な日本文化を体験することができるツアー機会が多かった点が多かった。色々な学校が参加するだけに、人数も本当に多かったが、ツアーをお台場、銀座このように2つに分けて、適当な人たちが、そして、本人が行きたい所を選択して柔軟に進められた点が満足できた。

また、フォーラムに参加する前から一番良かったと思った点は、すべての学生たちが日本人のバディがいることだった。フォーラムに参加する前、知らないことが多くて心配をたくさんしたが、お茶の水大学の親切なバディからフォーラム来る前まで連絡ができて、発表準備の関連が始めて日本到着後の全般的な生活情報も聞くことができた。また、日本に到着してからも東京駅までお迎えに来てくれた親切なバディのおかげで、迷わずに寮まで無事に行くことができた。

5. その他

6. 東アジア・世界がともに生きることについて

フォーラムを通じて意見を交わしてみた結果、それぞれの国ごとに事情が違っており、イシューになる問題に対する各国の国民の考え方や観点も違ったというのをわかった。東アジアで起きた衝突は、一国には、ある行動が文化的な側面で一つの慣習だったら、他の国には、同じ行動が禁止となっている行動だと考えられているなど問題が起こる原因が異なるという点からスタートになっているようだと感じた。

東アジアの連帯に向けては、表面的な取り組みや解決を進めることがなく、まず各国の文化と立場をまず理解することから始めなければならないと思った。それから誤解が生じる部分に関して、適切な謝罪と配慮、そして理解をしながら彼らの立場で共感をしてくればはるかに合意点を見出すことがさらに容易になると思う。

また、東アジアの連帯に向けたことだとしても、東アジア国内だけで解決策を見出すことなく、ほかの地域の国の成功した事例を見て解決策を探すことにとって参考したらいい方法を見つけられると思った。

10 日間の国際学生フォーラム

1. 国際交流的側面

4年間フランス語を専攻し、日本語を第2専攻として勉強してきたが、日本での半年間の交換留学を除けばいろんな国の人に会える機会が全くなかった。今回の国際学生フォーラムをきっかけにその理由が何かについて考えることができた。答えは私の「英語の実力」だった。自ら英語が足りないと思って外国人にあつたら避けるようになり、積極的に交流する機会がなかったようだ。しかし、10日間のフォーラムを通じて英語だけでなく他の言語を積極的に活用できるきっかけを作ることでもっとお互いの言語と文化に関心を持つようになった。国際交流において言語を活用したコミュニケーションが重要な要素といえるが、それより重要なことは他の言語と文化に対する興味と積極性ということを感じた。

2. 言語使用・学習の側面

国際学生フォーラムが行われた所が日本であったため、ほとんどのコミュニケーションは日本語で行われた。日本語を第2専攻とする私にとって10日間日本語を使うしかない環境が作られた分、大いに役立った。また、母国語ではない日本語を通じて韓中日の関係と葛藤はもちろんのことアメリカ、ニュージーランド、ポーランドなど多くの国の状況について新たに学ぶことができたのは非常に意味のあることだと考える。

3. 学問的学び

葛藤が繰り返される東アジアを生きていく韓国人として、恥ずかしくも東アジアの関係について真剣に考えたことはなかった。それで私に今回の10日間の国際学生フォーラムは大学4年の中で一番意味ある時間であり授業だと言える。韓国人が何に基づいて日本と中国に対して否定的に考えざるを得ないか、そして東アジアの真の和合のための道をそれなりに模索しながら、一人の韓国人ではなく一人の東アジア人の視覚で考えることができるようになった。また、絶えず議論的となっている日本との慰安婦問題、強制徴用問題についても単純に韓国と日本の歴史問題として見つめるのではなく、帝国主義が生んだ人権問題として見つめるべきことが非常に心に響いた。そして母国の韓国もつらい歴史があるだけ、過去の歴史を忘れてはならないが、未来志向的な態度で東アジアの問題を考える必要があると考えるようになった。

4. イベントとしてのフォーラムについて

10日間スケジュール通り進められた。朝早く起きるのは大変だったが、発表も東京1日ツアーもそして開会式、閉会式も楽しかった。日本人学生は内向的で積極的でないことをたくさん耳にしたが、みんな交流に積極的で責任感が強いということが感じられた。また、フォーラムだからといって重くて固い雰囲気のあるフォーラムではなく、自由で皆が楽しめる穏やかな雰囲気のあるフォーラムでとてもよかった。

5. その他

6. 東アジア・世界がともに生きることについて

他の学生たちの発表を聞きながら最も共感したのは差別用語を使わないということだった。韓国人として韓国に日本人、中国人、そして西洋人を差別して呼ぶ用語が日常生活の中でどれだけ多く使われているかを知っているからだ。そして、そんな差別用語に対して無感覚であった自分を反省するきっかけにもなった。

また、多くの戦争で何度も国を失ったポーランドだが、それにもかかわらず、未来を見ようとするポーランドの態度は感動的だった。母国である韓国もポーランドと同じ立場である。まだ、解決されていない過去の歴史で葛藤が繰り返されている。もちろん、歴史を忘れてはいけない。しかし、過去の歴史に偏って未来を見過ぎてはならない。特に、日本に対して否定的な認識を持っている多くの韓国人が慰安婦問題、強制徴用問題と歴史的問題を問題にした。(中国の場合は微細ホコリ問題)このようにある国の断片的な部分を見て、その国のすべてを判断してその国の人に対して勝手に決めつけることは偏見を生みかねない。真の意味での東アジアの和合のためにはもう少し客観的な思考が必要だということを感じさせられた。

The 8th international forum 2019

On 7-16 February the Ochanomizu University organized the international forum, "災害から連帯へーグローバルなネットワークの構築にむけて", to discuss how East Asia can work together like EU except for historical and government issues, and on how students from other countries suggest good idea based on their cultures and history. Topic was quite difficult, so it was hard to give an opinion and also draw the basic outline. But when I saw the presentation of the other students, I realized that I didn't have to worry about nothing. Despite the language barriers, every student did their best. And also, we discussed more in deep about sensitive issues. Honestly, I was afraid of talking about history issues. But through this forum, it was a good chance to know Japanese ideas and also the reason.

East Asia has many problems that must be sold, but people these days just try to avoid to talk about it because of the cultural exchanges. It is good to accept the different cultures, but we also have to see the core of the matter not only the outside. We can't solve any issues without this. That's why this kind of activity is necessary to all countries.

This forum was literally interesting and instructive than I thought. We have different cultures and history, but I felt that everyone wishes one thing. Even we have a trouble between the other countries, we realized that we can get through all those things and also can take the lead as students.

I think this forum was first step in a process that has the potential to shape future and ways of making it reality. I have learned and experienced a lot under this program. I'm really thankful to the Ochanomizu University teachers, staffs and students in every point as well as forum.

国際フォーラムのレポート

1. 国際的交流的側面

今回のフォーラムで、たくさんの違う国の学生たちと交流できました。私は違う文化圏の人びととの価値観の違い及びその違いを越えて交流することの有り難さを感じました。

以前、私は中国人としての視点だけで世界中の物事を見て考えていました。台湾問題など私たち中国人にとって極く紛れもない事実においてさえ、他の国の学生の見解との間でそんなに大きな差があることは驚きました。また、東アジアの一員として、いつも分離的な視点で東アジアの問題を見ていました。アメリカやヨーロッパの学生と話したら、全く別の開放的な視野で東アジアの現状を考えられるようになりました。たとえ交流の中で意見が噛み合わない場合が多くても、真摯に相手の考え方を聞いた後、自分は大いに勉強になったとつくづく思いました。

私たちは誰もが孤立の個体ではありません。違う価値観の人と交流して、お互いに長所を取り入れ、短所を補い合ってはじめて、我々は前に進めるのです。

2. 言語使用・学習の側面

私は日本語専攻です。これまで日本に来たことがないから、自分の言語能力は交流の支障になるのではないかと心配しました。しかし、ここでの体験は私の考えを変えました。交流の意欲さえあれば、言語のレベルはそんなに大きな問題ではないと実感しました。

日本人の学生と話した時、私は一生懸命に自分の表したい内容を言葉で表現しました。時々適切な単語が分からなくても、強烈な交流の意欲に駆られて、私は別の方法で表れました。

韓国や欧米の人と話した時、英語というツールをよく運用していました。前は自分の英語に自信がなかったのですが、やはりいざという時に下手でも英語で自分の考えを表現することができて、よかったと思いました。

3. 学問的学び

たくさんの国の学生たちの素晴らしい発表を聞いたら、勉強になりました。

アメリカと国際政治の歴史についての知識を学びました。例えばモンロー主義はアメリカの最初の外交政策で、第一次世界大戦の後アメリカの立場がどういふふうに変ったなどいろいろ知りました。アメリカの民衆たちが大統領の方針に対しての態度なども知りました。

中国と日本の間に戦争についての歴史問題が多いですが、日韓の間の慰安婦問題についてはこれまで深く考えなかったです。政治問題としてではなく、人権問題として考えると、これはかなり世界の注目や当事国の考え直しが必要な問題だと思うようになりました。

日本側の発表で非常に興味深いのは日中韓においての「相手国に対する印象」の調査です。これを見たら「なるほど」って、民間の交流がうまくいかない理由が分かりました。これから私たちの使命がまだまだ重いですが、頑張ります。

4. イベントとしてのフォーラムについて

4.1 良かった点（長所・達成できたこと）

気軽に違う国の学生たちとの交流の機会をたっぷり用意してくれて、とてもありがたいです。発表や討論の場に留まらず、学外の観光ツアーや自由研修でみなさんと仲良くなって、本当に嬉しいです。この体験はいつも貴重で、一生忘れられないと思います。

それに、「バディ」の設定も非常にいいと思います。このように絞って交流すると、もっと効果的で、親しみやすいです。

4.2 良くなかった点（限界・改善点）:

ありません。

5. その他

ありません。

6. 東アジア・世界がともに生きることについて

小さい頃の教育を重視すること。例えば言語の学習は大学専門としてではなく、小さい頃から相手国の文化や言語などを学んだほうがいいと思います。そうすると相手国に対しての好感度が増し、将来日中韓の友好関係を築くために有益な準備になります。

欧州連合のような効率的な組織を作ること。東アジア人としてのアイデンティティ意識が低いという現状を改善するために、もっと連合して協力を行わなければなりません。きっと東アジアにも明るい未来があるはずです。

AFTER THE FORUM

1. 国際的交流的側面

This is a very good experience to communicate with other students from different countries. We shared our ideas about the international issue through this forum. I realized that our teenagers have our responsibility to think about development of all humans. We also become good friends no matter where are we from. I cherish the experience of communicating with students in Japan with students from other countries. I am a shy person, and my Japanese level is not high. I seldom speak at the beginning, and I dare not communicate with them. But everybody is very enthusiastic. The Japanese friends who is our buddy always take us sightseeing in Tokyo in those days, which reduces a lot of the risk of our going lost, and they also take pictures for us all the way. Students from other countries are also very enthusiastic, which touches me very much. Slowly, I try to chat with them.

2. 言語使用・学習の側面

Because I have only studied Japanese for one and a half years, my Japanese level is still very low. There are a lot of Japanese vocabulary I can't understand in the process of communication, but I learned a lot of vocabulary when I referred to the PPT. A lot of vocabulary cannot be learned in textbooks, which helps to improve my Japanese level. Where I can't understand it, I'm trying to use English and my English ability has been trained. Because I am in Japan, in an all-Japanese environment, I come across a lot of Japanese information every day, which is a good practice. And even in school, Japanese teachers can speak Chinese, so they can speak Chinese when they really don't understand it. But few people in Japan understand Chinese, if they don't understand it, they should try hard to speak it. This also makes me have to try hard to use the Japanese I have learned.

3. 学問的学び

I have learned a lot, such as how to deal with foreign cultures, how to develop multiculturalism as the New Zealand student said, we should stand on different countries' standpoints to think problems as what the American students said, we should also reduce the use of discriminatory words in life as what the Korean students said and so on. These ideas also broaden my vision. Hearing the proposals from the students of Korea, Japan, the United States, Poland and New Zealand, I feel that they all have a sense of responsibility and put forward their own ideas for the whole community of human destiny. Although the feasibility of some proposals needs further study, as young people, they can think objectively and geographically. This spirit is worth learning. In the future life, we should not only pay attention to the problems within our subjects, but also think more magnificent and beneficial things across the subjects.

4. イベントとしてのフォーラムについて

Advantage:

It provides a platform for students from all over the world to exchange ideas. Listening to students from Europe, America and East Asia can learn a lot of knowledge. Everyone can seek common ground while reserving differences. The atmosphere of discussion is very good. In addition to the two days of speech and discussion, other interesting visits were arranged, and a lot of knowledge was learned during the visit.

Some of the points I think have a little doubt about:

Let us think from geography, there are students from South Korea, Japan and China in East Asia, Poland in Europe, as well as two English-speaking countries --the United States and New Zealand. This enables us to listen to the proposals of students from different regions, which is very good. However, most of the students' majors are not international politics, and the feasibility of the proposals put forward by the students who lack professional knowledge needs further study. What's more, there are only two students in a school. Where are the two students' hometown? Can it represent the whole country?

5. その他

Let's talk about something that has nothing to do with the forum. Let's talk about what I saw and learned in Japan.

Although this is not my first trip to Japan, I traveled to Japan with a tour group in summer. I never used a Japanese tram in a sightseeing car every day. In China, I've heard that trams in Japan are crowded. I've heard that during rush hours in the morning and evening, there are still staff members who try to push passengers into the trams to close the door. I wonder if that's true? It wasn't until this time that I really experienced Tokyo's trams. It's really convenient to take a tram in Tokyo, but the premise is to be familiar with the tram's route and use appropriate software to find the

time of the tram. The first day we went to school together, so we didn't go wrong. But it was the early rush hour when the tram was crowded with people. First, as soon as the door opens, the passengers who get off come out, and then the passengers who wait in line get on in turn. At first, I thought we couldn't squeeze into such a tram, but we got on. There were a lot of people behind, so we went through the service and pushed the rest of the passengers onto the bus. The whole distance of three stations has always been like this. I finally experienced the crowding of trams in Japan. Later, when we returned to our dormitory, we had some trouble. We missed the stop for two days and got out and sat back. We don't know where the problem is. Clearly, we are all in the right direction. Why don't some stations stop? Then we finally understood that we didn't understand the train schedule. We should take the ordinary bus back to our dormitory, but sometimes it's urgent tram to park on the track. We always got there and watched the tram get on, but we didn't see which train it was. After that, we didn't take the wrong train again. Another time we got off the tram at Oyama Station, and we went out with the crowd, but we went out from the wrong exit. So, we took a long time to find the way to our dormitory.

In China, the refrigerators we use now are all fresh-keeping layer on the top and frozen layer on the bottom. We are also used to this way. But the refrigerator in the dormitory is just the opposite. Because there is no plug-in in advance, so the temperature of the two layers is room temperature. It is not clear which is the fresh-keeping layer. So, I misplaced the sandwich for breakfast in the freezer. When I was about to have breakfast in the morning, I took out my sandwich, but it was frozen. Although I don't have breakfast, I've learned the difference. Next time I'll be careful.

I was amazed by the classification of garbage in Japan. The first time I went to throw rubbish, I saw rows of rubbish cans, big and small, which made me feel a little overwhelmed. I was surprised by the way a bottle, cap, bottle and wrapping paper were discarded separately. Also, the waste recycling area in the corridor is neatly arranged with cardboard shells, old magazines and other things, very neat, which made me touched. At the same time, I would rarely see garbage cans in the streets of Japan. Every time there is garbage, I would carry it in my pocket and throw it back into my dormitory.

6. 東アジア・世界がともに生きることについて

Knowing more about the history and culture of other countries will help us better understand other countries. At the same time, we should also learn more foreign languages well. It is better to be able to read books from other countries and compare them with those from our own countries, so as to analyze the similarities and differences among them.

I agree that we should change our position and think from the standpoint of different countries to get all-round answers. When analyzing problems, we should put aside prejudice and communicate sincerely. At the same time, we should recognize each other's actual situation and make good use of each other's advantages in cooperation.

Require common ground while reserving differences. Allow differences between countries. Any cooperation is not the binding of many countries, but the equal cooperation. We should not only consider whether it is in the interests of our own country, but also whether it is in the interests of other countries.

Exchange and cooperation between countries should be based on mutual benefit and trust. International cooperation will not be possible if countries distrust each other.

Make good use of specific international organizations to solve problems. For example, the United Nations Climate Summit, facing climate problems, global warming, sea level rise and so on, is a global human problem. Through the activities carried out by international organizations, proposing proposals has guiding significance for solving problems.

The knowledge I obtained during The 8th International Student Forum

1. 国際的交流的側面

During Forum I had a pleasure to meet students from around the world: Japan, Korea, China, New Zealand and USA. It was a great opportunity to exchange numerous opinions on world problems, which concern all of us. Thanks to our wonderful hosts from Ochanomizu University we were able to get to know each other and make new friends during this week. Apart from academic symposiums we had a chance to spend time together during many cultural events and study tours, common meals and common studying. I find it very important to do this kind of networking and I am very glad we had a chance to get to know each other.

2. 言語使用・学習の側面

During Forum the main language that we used was Japanese. For me, as a Japanese language student, it was a great opportunity to use this language to present a presentation and conduct discussions on very important topic. However, theme of the Forum which concerns serious world problems was sometimes too difficult to understand in Japanese, we were using English to obtain a better understanding. I think I learned a lot, especially I got to know a bank of vocabulary related to international relations, environmental problems, world history, etc.

3. 学問的学び

During Forum I had an opportunity to take part in various lectures and two day's symposium. I had a chance to hear presentations about multiculturalism in New Zealand, America's involvement in East Asia's countries situation, Japan- China- Korea Educational Union, the framework of European Union used in Asia, environmental problems in Asia, citizenship and identity of East Asians and we, ourselves, gave a speech about the role of Poland within the European Union. I am really glad and grateful for getting this opportunity to hear out presentations on various topic, which some of them I haven't known actually. Besides, we did have a vivid discussion related to what can be done for East Asian countries to live together in peace and mutual support. We did think about solutions East Asian countries could undertake in order to provide some kind of union, like apology once for all, burying the hatchet, forgiving, not underestimating small countries, preserving the rule 'one for all, all for one', mutual support, raising awareness, education, respecting other cultures and minorities, preserving basic rights etc. Each idea helped me understand that we live all together and there is no place for meaningless wars and conflicts. Our planet and nature is showing people constantly that we should live together in peace and take care of the common planet we were enriched to live on. So that, one of the most important things for now is sustainable development and generally the United Nations' Sustainable Development Goals, which are the blueprint to achieve a better and more sustainable future for all. They address the global challenges we face, including those related to poverty, inequality, climate, environmental degradation, prosperity, and peace and justice. The Goals interconnect and in order to leave no one behind, it is important that we achieve each Goal and target by 2030. The strategies are presented in the Agenda, which provides a global blueprint for dignity, peace and prosperity for people and the planet, now and in the future. A few years into the Agenda, we see how civil society, private sector, and governments are translating this shared vision into national development plans and strategies.

4. イベントとしてのフォーラムについて

In my opinion the most important thing on plus is that people from around the world were gathered in place discussing about very important problems and it matters a lot. So, basically the main idea is absolutely wonderful. Through presentations we had a chance to think about a topic we would like to share with others, so made our own contribution into this Conference. Lectures and discussions were conducted on very high level. Thanks to many cultural activities we were able to get to know each other better, get to deepen our knowledge about Japan, which was very handy. As something, which didn't satisfy me in 100% was that my Japanese level was sometimes not enough to understand everything, mostly I did my best to catch the general sense. Also, maybe it would be better to fill the time of the Forum more tightly, providing more activities.

5. その他

6. 東アジア・世界がともに生きることについて

In my opinion, the topic of the Forum is related to attempt of establishing some kind of union in East Asia which could be based on European Union framework between countries, which are very important members of international relations. The role of America and other Asia and Pacific countries should be supportive and can by their own attitude encourage East Asian countries to get a try to live together harmoniously.

<参考文献>

<https://www.un.org/sustainabledevelopment/>

国際フォーラムで学んだこと

1. 国際的交流的側面

During the cultural exchange, I learned a lot of things. First of all, I feel more confident in the Japanese language. During the conference, I met many wonderful people who turned out to be very helpful and willing to talk. Before leaving Poland, I was very stressed thinking about meeting new people from a different cultural circle. Being already in Japan, I met students who were willing to talk with me and thanks to them I feel more confident now in Japanese. Because this was my first visit to Japan, the trip proved to be very helpful. During the conference, I learned about many things that were not discussed before in college. I was positively surprised by many things. I did not feel uncomfortable in the new environment and the conference was very interesting and informative.

2. 言語使用・学習の側面

Participation in this conference was a big challenge for me. Because it was my first trip to Japan, I was very nervous about the necessity to communicate only in Japanese. Before participating in the conference, I used Japanese only at the university, during classes, or talking to Japanese people living in Poland who usually knew Polish or English. The challenge for me was to open up and speak freely in Japanese. At the beginning I was very stressed, but from day to day I felt more and more confident. Natural conversation is something completely different than talking in Japanese in classes at the university. I was not used to using the colloquial language, because in class in Poland the polite form was always used. At first it was difficult for me. It happened that I did not understand something, but students of Ochanomizu University always quietly explained to me in a different way what they wanted to say, so I did not feel uncomfortable. Participation in the conference and the opportunity to listen to the speeches teaches me a lot, both scientifically and linguistically. During professors' lectures very interesting topics were raised.

3. 学問的学び

While attending the conference, I learned a lot of things. In the first days, the lectures I attended were very interesting and thought-provoking. During one of the lectures, the issue of differences between nationalism and patriotism was raised. It was a very interesting lecture for me, because in my presentation I also spoke about similarities and differences in these two words. Among others, were linguistic conflicts in Belgium or linguistic multiplicity in Canada. Both lectures were very informative, and I listened with interest. During the forum in my opinion all presentations were successful. Before conference, during my own preparation to speech on the forum I learned a lot of new things and I became very interested in the subject of conflicts in East Asia. I have always been interested in history and politics, so these were very interesting topics for me. During the forum, a lot of history was talked about and issues of disputes with both Korea and China were raised. Because people from Japan, China, Korea, America, New Zealand and Poland participated in this event, it was possible to see different opinions on this subject. Each participant presented his views and ways to improve international relations in East Asia. In addition to the substantive part, I also learned how to perform in public. I was very stressed before my presentation, I was afraid that I would not understand a question or that I would not be able to speak out. However, thanks to the nice atmosphere, the presentation turned out to be a very nice experience.

4. イベントとしてのフォーラムについて

As I wrote earlier - participation in the forum gave me many new opportunities. I have learned a lot from using Japanese and talking in this language. Participation in the international forum was a great honor for me. The international forum was very well organized. The first day there was a familiarization event, in which I had the opportunity to meet other participants of the event in a relaxed atmosphere. All games and conversations were very cool, and I had fun. A good idea was also the presentation of University students attended by those attending the event. Forum was very well organized and thought out. We were handed out ID cards as well as folders with all important documents. In the briefcase there was, among others, a book in which summaries of all presentations were provided - it was very helpful. In addition, we received a conference plan on which all events were repeated in a very accurate way. During the conference, scans of all presentations were also handed out, which made them easier to understand. „Living Tips in Japan for International Visitors” was also very helpful for me, and I think that it was a very good idea to give this to the international students. During the forum, a guided tour around the university was also organized which was very helpful.

5. その他

Despite the initial stress associated with the conference, the international forum was a positive experience for me. I

met many new people and also learned a lot. Thanks to participation in the forum I learned a lot of new and interesting things, and also feel more confident in speaking Japanese. All participants were very friendly and I remember this event very nicely.

6. 東アジア・世界がともに生きることについて

Before leaving, during the preparation for the presentation, I learned a lot about the problems in East Asia. Preparing my part of the presentation I drew attention to the numerous disputes between Japan and China and Korea that have had a tendency in the last century. Especially the conflict with China and the very long war influenced their current foreign policy in my opinion. During my speech, I wanted to show how Poland is currently cooperating with the countries with which it was in conflict during the Second World War. War in both Europe and Asia in the twentieth century were very bloody and terrible. However, I think that in order to be able to live together in harmony and coexist with other nations, everyone should focus on the future. War is always a nasty and terrible experience, but you cannot turn back time and erase it. I believe that now everyone should focus on how to live peacefully with other nations. Past wars should not be the subject of disputes, they should be a warning. In my opinion, we are all equal and we should respect each other. Race, nationality, religion or political affiliation should not be the subject of disputes between people. As long as our views or beliefs do not harm anyone, they should not turn into conflict. For me, the basis for international cooperation and understanding between countries is mutual respect for each other. War is a terrible experience and I think that states should focus on the present and not live in the past and past conflicts. In my opinion being cooperative and working together for international peace is also important. Each country should show willingness and commitment for the common good.

Ten Days in Japan

1. 国際的交流的側面

This was not my first time leaving America, nor was it my first time in Japan. However, though the time was short, this trip was truly memorable to me. All of the Ochanomizu students were warm and welcoming. Despite being a foreign man entering a group of Japanese students at an all-women's college, I never once felt like I didn't belong. My buddy Reiko Ajiki was especially helpful in how she was always available to answer whatever questions I had, even before I arrived in Japan. The other foreign students were friendly too. Because the group as a whole was so amicable, I enjoyed my time even when we went to places I had already been to.

2. 言語使用・学習の側面

Speaking with everyone at the conference reminded me of how much I love Japanese. At first it was overwhelming, but I knew that going into it. On the first night when Reiko and Ayumi Honda met me at Ikebukuro station, it was challenging just to get words in Japanese out, let alone hold a conversation with them. Yet, as the days went on, I found my Japanese skills slowly returning to me. Though my ability to convey my own thoughts in Japanese is still not as good as I would like it to be, I was struck by how I was able to have dinner conversations with my new friends in Japanese and follow along, for the most part.

Something I did not anticipate was the value of meeting other foreign students who study Japanese. It was engaging to speak to Chinese or Korean students who did not know much English but did know Japanese. When there was a misunderstanding, we could not simply use an English word like I can when speaking with many of the Ochanomizu students and instead had to push ourselves to convey our thoughts in this second language.

3. 学問的学び

My presentation did not go as well as I would have liked, but it never does. I did not have much of it memorized, and I stumbled over several parts despite my practice. The Ochanomizu students would likely say that my pronunciation was good, but I know it can be improved. When I compare myself to the other foreign students and their presentations, I cannot help but feel like I gave the worst presentation. The Chinese students were able to write better than I could, the Korean students could speak better than I could, and the Polish and New Zealand students were better prepared than I was. I make these comparisons not to engage in self-loathing but instead to take inspiration from them. All of these students knew Japanese as a second, or even third, language, and yet they were able to express their views on complicated topics in Japanese. I hope to emulate their success one day. I know that their level of Japanese is not as different from mine as it seemed when I was listening to them speak.

After my presentation, I was embarrassed by how difficult I found it not only to answer questions in Japanese but also simply understanding the questions being asked. Even when I did understand the question, it was often impossible to express my opinion in Japanese. However, this has motivated me to continue my studying so that I can better express myself in Japanese.

4. イベントとしてのフォーラムについて

Any criticism of the forum itself stems from my own lack of ability in Japanese. To be honest, participating in the discussion part was almost impossible to me simply because I did not understand the Japanese being used. Sometimes Ayumi would translate the Japanese, and for that I am grateful. But the comments immediately after the translation would be lost to me. I do not think this is a fault of the conference and those running it; rather, I was at the lower end of Japanese skill among the participants, and it was my responsibility to sufficiently prepare beforehand. Therefore, I do not blame those running the forum on my lack of understanding.

5. その他

This is not directly related to the subject of the forum, but as it is related to my study of Japanese and relationship with Japan as a whole, I would like to write at some length about how this trip influenced my relationship with Japan.

I studied abroad at Waseda University for five months before coming to Japan this second time, and so I cannot help but compare the two experiences. Although this time was much shorter, in many ways I found it better. When I attended Waseda, I lived with a host family. I chose to live with a Japanese family because I wanted to experience as much of Japanese culture as I could. I knew that it would present challenges, but I also knew that those challenges would be

unexpected. Living with my host family proved to be difficult. To make a long story short, my inability to express myself well in Japanese resulted in an uncomfortable atmosphere in the house for me and made me want to spend as little time there as possible.

This time in Japan I had a nice apartment to myself, and that fact alone did wonders to my general outlook. It's not that I wanted to spend lots of time alone in my room; rather, I had no anxiety about returning home after any activity I was doing. With that source of stress gone, I was able to more fully immerse myself in the things I was doing, and that created a better experience overall for me. An experience so positive that by the time I was in Haneda airport waiting to leave, I knew that this was absolutely not my last time in Japan.

The friends I made during this forum and the improvement I saw in my Japanese inspired me to seriously consider living in Japan for some amount of time in the future. Returning to the hustle and bustle of Tokyo felt nostalgic and familiar. Even something as simple as navigating Tokyo's train system felt refreshing after using the admittedly inferior New York metro system. It's not to say I want to live in Tokyo because I love the trains so much, but I am struggling to put into words the feeling I had walking around Tokyo. As I commuted, explored, ate, and lived in Tokyo for this brief time, I was able to see myself living in Japan, and I owe that to my new friends who made me feel so welcome.

That said, in many ways this forum was a vacation for me, and a vacation that was paid for. I recognize that. I took a break from my school work and fully devoted myself to the forum and getting to know the others attending it. Should I live in Japan, it will not be like this forum. It will likely not even be in Tokyo. But I am thankful to Vassar College, Ochanomizu University, and everyone who enabled me to participate. It was rewarding, and it may have shaped my future.

6. 東アジア・世界がともに生きることについて

Attending this forum was very valuable to me because I had the opportunity to hear opinions of different people from around the world firsthand. Before participating in the forum, the solution to Japanese-Korean and Japanese-Chinese tensions felt trivial to me. "Japan should apologize for what it did during World War II" felt like the simple but effective solution. I quickly learned over the course of two days that the solution was not as simple as it seemed.

The first eye-opening moment for me was when Ayumi asked a question to the group that was long the lines of "If Japan should apologize for its actions, why doesn't America have to, too? US soldiers raped women during their island-hopping campaign in World War II". As an American, I am embarrassed to admit I did not know about these specific atrocities committed by the American military during the second world war. I know America is far from perfect, and I know America has done many terrible things, but I always thought America was capable of admitting those atrocities. In high school I learned about many awful things American did to its own people, whether it was the targeted, systematic violence against Native Americans or the enslavement of African Americans. I had to look up both the fact that American soldiers raped Japanese women and that the American government had not admitted or apologized for these heinous actions. Ayumi was right. Japan *and* America should both apologize publicly for past wrongdoing.

The conversation, and my newfound understanding, did not stop there. Even if we could magically make the governments of different nations apologize for past wrongdoing, the minds of those nations' people will not also magically change. The question of how to change those preconceptions was discussed at length, and though I did not fully understand what I was being said, I appreciated the level of depth everyone was willing to go to attempt to solve a complex problem. Everything from tax-funded language schools to community cultural events was discussed. I did my best to voice my opinion, and even though it was expressed simply due to my level of Japanese understanding, everyone made my opinion feel valid. Not only that, but one comment I made about the US officially apologizing for its actions spurred a long back-and-forth conversation about various nations' governments that I could not fully understand.

Ultimately, we did not come to a single conclusion about what can be done to ameliorate international relationships, but the most important takeaway for me was the myriad of options available to both students and individual governments. I still believe that of the best things individuals can do is continuously challenge their own beliefs by discussing them with different people. After the two days of forum had concluded, I met with some older Japanese friends I had made during my time studying at Waseda. I did not directly bring up the topic of the forum with them, but by talking to them about Korean friends I had made, I learned that my Japanese friends had some biases towards Korean people. There was no outright vitriol towards Korean people that I could tell, but they seemed suspicious of my friends simply on the basis that they are Korean. This interaction showed me the importance of attending the forum because, though I knew about the issues at the governmental level, there is plenty of work to do on the individual level.

Ochanomizu University 8th International Forum Report "Developing cross-cultural bonds"

1. International Exchanges

I was fortunate to have the pleasure of being a participant in the 8th international forum held for ten days at Ochanomizu University in Tokyo, Japan. As I hold a great love not only for Japan, but for the region of East Asia in general, I saw it as a great privilege to be invited to speak and participate in the discussion on the current geo-political climate within East Asia, and to explore resolutions that could dissipate international tensions in the region; specifically with regards to the big three of China, Japan, and Korea. As a New Zealander coming from outside the sphere of East Asia and its affairs, I was hesitant as to how effective my input and perspective would be and how it would be received in the forum. Nevertheless, as the representatives of New Zealand, my presentation partner and I decided to approach the issue from a Multicultural perspective; the history of multiculturalism and New Zealand as well as its current day examples, and how we can utilise these aspects and adapt them into an East Asian context in an attempt to minimise cross-cultural tensions.

2. Language Use and Learning

As the forum was predominantly conducted in Japanese, it was certainly a challenge for my Japanese skill level, but a welcome one. With regards to language support, I would have to say that English language support and translation was quite minimal. As such, there were various moments during the forum in which communication between Western participants and East Asian participants encountered difficulties and inabilities to effectively communicate. However, I believe that in some ways this proved to be a positive aspect. As the theme of the forum was political, historical, and cultural in nature, the language utilised in the forum was quite different from that which is commonly explored in Japanese language classes, and certainly provided me with the motivation to push myself and tackle the linguistic challenges that I was faced with.

3. Academic Learning

As New Zealanders not residing within the East Asian sphere, we were not acquainted with the intricate details of the tensions and difficulties, however, I believe we were still able to bring a fresh and alternative perspective to the forum which ultimately provided useful examples and insight regarding cross-cultural relations. Being born and raised in a multicultural society, I was not aware of how many aspects regarding cross-cultural acceptance and coexistence were ingrained into my viewpoint, in contrast to the general East Asian perspectives. This certainly opened my eyes to the fortune I have in living in a multicultural country such as New Zealand, but it also reaffirmed my confidence that the ideas we had brought to the table would definitely be able to prove useful within an East Asian context. I believe that we achieved our goal in properly conveying our desired message and am thus very satisfied with our performance at the forum.

4. The Forum Event

This forum was also an excellent opportunity to connect with the other participants on a personal level, which is an integral aspect of cultivating understanding, building friendships, and resolving conflicts. As the forum was only scheduled to run for ten days, I was at first apprehensive as to how well the groups of representatives from the various international universities would be able to come together and was concerned that the short time would not facilitate relationship building on any fundamental level, but remain in a state of cursory politeness. I was pleasantly surprised, however, that everyone seemed to quickly mesh together and get along well, and that we very quickly were able to form deep and meaningful friendships with one another.

5. East Asia and Living Together

If any meaningful change is to take place, it is essential to focus not only on the broader picture, but on the individual level as well. Our ability to come together as a group, despite our various backgrounds and perspectives, was facilitated further by participation in study tours organised to both provide opportunities for closer interaction with our peers, and to increase our cultural, historical, and political understanding of Japan, in addition to each other's respective countries. I am deeply thankful for the opportunity to participate in this forum and for the time I spent at Ochanomizu University. The experience was invaluable: not only as an opportunity for growth in my political, historical, and cultural understanding of Japan, as well as of the countries of the other participants, but as an opportunity to create lifelong friendships. This forum was an incredible life experience which I will carry with me far

into the future, and I wish all the best for its future continuation. I am excited for all of my fellow participants' future successes and for the impact they will create in the world.

8th International Student Forum

1. 国際的交流的側面

Before participating in the forum, I was very excited to meet fellow Japanese learners from across the world, as well as Japanese students who were interested in global issues. I was nervous, however I believed that as we all had a common interest, we would be able to get along well, which turned out to be very true. While New Zealand is obviously a multicultural society, I had never had an experience like this to learn and share ideas with people from such a variety of countries. I was introduced to new ideas and perspectives as well as being given to share my own culture and perspective with people who did not know much about New Zealand, and so I believe it was valuable for all of us to be able to talk freely and openly about many topics.

2. 言語使用・学習の側面

Speaking in Japanese with the fellow exchange students was very interesting as we had to communicate with each other in our second languages. It was an effective way of using our language skills in real-life scenarios. This also illustrated the benefits of learning a second language, as we may not have been able to communicate otherwise if we had not studied Japanese. Speaking Japanese with the Japanese students was also very useful as they were understanding and helpful when I made mistakes or did not know how to express my ideas correctly. It was great practice and being able to speak Japanese every day like that is hard to do in New Zealand, so it was a truly valuable opportunity.

The topics we discussed were complex, and sometimes it was quite a challenge trying to share ideas without knowing the correct vocabulary. The topic is complex even in English and so sometimes it was a struggle to fully understand what was being said. However, during the forum I was able to learn a variety of new and useful vocabulary that I may not have been able to learn in class. I do wish my Japanese ability had been higher so that I could grasp more of the concepts that were discussed, however I still managed to learn a lot from what I did understand.

The forum also made me even more interested in learning foreign languages as I was able to see the benefits of being able to speak two or more languages, as you can connect and communicate with many more people. The forum has definitely inspired me to continue working hard at my Japanese and consider looking at learning another language at some point in the future as that will continue to create valuable opportunities.

3. 学問的学び

As mentioned before, I may not have picked up all the ideas that were discussed in the symposium, however I do still feel like I took a lot away from the lectures and symposium. Specifically, learning about each of the participating countries was very interesting and informative. Being able to see how each country looks at certain topics such as immigration, education and foreign policy showed there are both positive and negative aspects to these topics and things to be learned from each country. For example, the EU making second language learning compulsory was something I did not know, but I easily understood the benefits of such a scheme. It would have to be implemented differently outside of the EU but I think many other countries could use the EU's system to deepen multicultural understanding.

Learning about East Asian countries' perceptions of each other was also surprising and interesting. I understood that there were negative perceptions between China and Japan, and Japan and Korea etc., however I thought that was a minority view. However, after the presentations and lectures in the symposium I learned that a much larger majority of people in East Asia appear to have negative perceptions of people from other East Asian countries. This also does not necessarily stem from personal interactions but rather from perpetuated stereotypes or things they hear from the media or on the internet. This illustrated the influence of the media and the impact historical attitudes still have on modern society. Also, the idea of an 'East Asian' identity did not seem to resonate with most of the students from Korea, Japan and China, showing that people from these countries see themselves as separate from the other countries in East Asia which does not encourage a connection and understanding between countries. This also illustrated one of the many reasons it is currently difficult for East Asia to live peacefully,

4. イベントとしてのフォーラムについて

I think the most important idea, that came up a number of times was deepening understanding across nations. Seeing specific examples from each of the participating countries showed that the more we stop seeing other countries as an enemy or as different and start to see what we might have in common, it can provide a beginning towards peace. As all the participants of the forum prove, most of us are willing to work together to find peace but economic and political issues make it more difficult to find a solution. Holding events such as this forum can encourage peace and increase understanding amongst this generation, not only in East Asia, but around the world. If we can begin a new generation

without distrust and conflict between countries, we may begin to be able to live in peace soon.

The issue of comfort women (慰安婦) still seemed to an issue which both the Japanese and Korean students had differing opinions on. As someone from New Zealand, I don't think I can say much on this topic, however the fact that both sides were willing to discuss ideas on how this very complex issue could be solved showed that there has been progression from the past. However, this also shows that some historical issues are still causing tension between nations and that all parties involved must come to some sort of agreement before the issue can be resolved. This is difficult to achieve as people have many conflicting ideas, even within countries. This forum showed that being willing to talk and attempt to find a resolution to such a complex issue is an important first step towards peace. This was also proven by the presentation by the students of Warsaw University, whose Polish perspective truly illustrated the importance of focusing on the future, rather than letting the past stop any progress that could be made. Of course we must acknowledge and not forget what has happened in the past, but we should also use the past to strive towards a brighter future.

I think this forum demonstrated all the steps we can already begin to take to work towards peace and the ones we have already achieved. I think it also highlighted some of the issues that will take more work to overcome and that must be truly focused on before we can live in peace.

6. 東アジア・世界がともに生きることについて

Being able to come together and share our own experiences and opinions in this forum is very important in deepening understanding across nations. The things we have learned can be used by us in the near-future to make global change from within our individual countries. From here, we can begin to share what we have learned from other countries and see how their experiences can help encourage change in our own communities. This forum has allowed everybody who participated to think more deeply about the impact we have on global peace and how it takes every one of us to achieve it.

We must continue to have discussions and share ideas, even if it takes some time to agree on the solution. We need to encourage students to be interested in making a change for their future, and realizing their individual contributions are truly valuable. We cannot be put off finding a solution even when it seems nearly impossible, as if we work together using our shared experiences, we can live in peace. I think it is very possible to achieve peace in East Asia, we just have to stay committed to finding a solution and continue to hold events such as the Global Forum. Overall, I think this forum has achieved a lot and put us in the right direction to solve conflict in East Asia and promote global peace.